

(別紙3)

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ひまわり島田初倉校			
○保護者評価実施期間	2024年 10月 1日 ～ 2024年 10月 21日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21件	(回答者数)	21件
○従業者評価実施期間	2024年 10月 10日 ～ 2024年 10月 23日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 11月 27日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個に応じた支援体制・興味や得意を生かした支援を提供している。	・視覚的に理解しやすいように表や図といったツールを用いて、個の能力・特性に応じて対応している。 ・こどもたちの好きなこと・得意なこと・ブームなどを日常会話から探り、支援に取り入れている。苦手な作業は好きなことを題材にして誘ってみたり、興味のあることでこども同士のやりとりにつなげられる関わりをしたり、得意なことを褒められることで自信につなげられるようにしている。	・常にアンテナを高くし、情報の取り入れをしながら、更に個に合わせた支援ができるよう職員個々の専門性を高めていけるようにしていく。 。こどもたちと丁寧にコミュニケーションをとりながら、活動内容を充実させ、こどもたちの興味の幅を広げられるようにしていきたい。 ・パソコン学習としてより専門的にパソコンを学べる体制を整え、個々の余暇や将来の職につながる支援を提供していきたい。

2	・自分たちで選択する機会や意思決定したり、意思表示できることを大事にし、個々に合わせた丁寧な支援を提供している。	・選択しやすいものやわかりやすく具体的に選択肢を提示した中で、何をしたいかなど選択する機会を多く設けている。また、こどもが「○○したい」など発信したことを受け入れてもらえる経験を積み上げられるように、可能なものは対応をしたり、不可能であるのなら、理由を伝えながら代替案と一緒に考えたりと試行錯誤しながら取り組んでいる。またことばで表現することが苦手な子が多いが、こどもたちが発表する機会を設け、考えたりことばで伝える力を育めるようにしている。	・職員が障害特性や発達についてなど、こども理解を更に深められるよう研修したり、より一人一人のこどものことを知り、個に合わせた支援ができるよう職員間でのコミュニケーションを活発にしていきたい。 ・職員が間に入り、こどもたちの思いを調整しながらやりとりする機会を増やす中で、職員が表に出すぎず手を出しすぎず、少し見守ることも大事にしながら、こどもたち同士でやりとり・調整できる力を少しずつ育んでいきたい。
3	・庭・神社など身体を動かしたり好きなことに没頭したり、発散できる環境が近くにある。また家庭的な雰囲気がある一軒家でありこどもたちが安心して通って来てくれている。	・高学年のこどもたちが思い切り走りまわるためには狭く感じる校舎の庭では縄跳びや土・水あそびを楽しめるようにしている。 ・鬼ごっこや缶蹴りなど身体を動かしたり、ルールのあるあそびをやりたい時には、こどもたちに声かけし、神社で遊べるようにしている。その日のメンバーによってみんなが参加できそうだったり、まだルール理解が難しくみんなの仲間に入ることに不安を感じている子たちもちょっと仲間に入ってみようかなと思えるようなあそびの提供をしたり、誘い方の工夫をしている。	・発散したいこどもたちが、なるべく外に出られるような職員体制を作っていき、室内トラブルを減らしていきたい。 ・個の姿をより丁寧に把握し、必要なタイミング・場面で必要な子に職員がつけるように連携し、子の安心感を膨らめ楽しさを感じられることで、より多くのこどもたちの集団参加を促していきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・きょうだい向けのイベント・地域交流などの機会が持てていない。	・きょうだい向けのイベントは、実際のご家族の要望把握ができていないこともあり開催できていない。 ・以前はドックセラピーなどで訪問していただいたりしたこともあるが、コロナ後地域交流のきっかけが持てない。 ・地域の児童館は利用することはできるが、イベント参加などは時間の都合もあり難しいことが多い。	・保護者からの意見聴取をし、要望に応えられるようにしていきたい。 ・保護者・他事業所などから情報を得て、地域交流につなげられるきっかけを作っていきたい。
2	・放課後の時間ではなかなか活動の予定を組むことが難しい。	・利用児の年齢も幅広く、下校時間のばらつきが大きい。 ・みんなで活動できる時間が短い。 ・分かれて活動するためには職員の人数確保が難しいことも多い。	・職員の人数が十分に確保できている時には、こどもの学年などに合わせ、可能な範囲でグループ分けをし活動を組む。

3	<ul style="list-style-type: none">・ 着替えや排せつなどで介助が必要な場面では、異性職員が対応しなければならない実態がある。また高学年の男児がパニックなど不安定になった時に十分に対応しかねる。	<ul style="list-style-type: none">・ 男性職員がいない。	<ul style="list-style-type: none">・ 男性職員の確保。・ 今後も可能な場面では高学年のこどもに低学年のこどものお手伝いをしてもらえる状況を作っていく。
---	---	---	---